

予算委員会

平成30年度勝山市一般会計補正予算について

予算委員会では、平成30年度勝山市一般会計補正予算（第2号）について審査を行い、これを可決しました。

コミュニティ助成事業は、宝くじを財源として「自治総合センター」が行う地域の発展等を目的とする事業です。地区公民館の新築改築、備品購入等に利用できます。今回は新築を含む三地区が補助対象となりました。

また、小中学校において、ふくいポークなどの「福井の地場産食材」を利用した給食を県補助を受けて実施するための予算が計上されました。三回にわたって行われる予定です。

さらに、災害復旧事業として、今冬の凍結により損傷した市道アスファルト舗装の復旧費が認められ、災害査定結果に基づき、修繕が進められます。

最後に、新年度計画されていた、都市再生整備事業については、交付額が確定したため、事業内容について説明があり、項目ごとに様々な角度から議論が交わされました。

総務文教厚生委員会

■今定例会の審査結果

審査の結果、議案5件について全て可決し、陳情2件のうち1件は採択、1件は継続審査としました。

「勝山市障害のある人との意思疎通のための手段を理解促進する条例」の制定について

この条例では、第1条「目的」、第2条「市の責務」、第3条「市民等の役割」、第4条「施策の推進等」、第5条「財政措置」を定めています。

第1条「目的」では、障害のある人もない人も全ての市民と事業者が、それぞれの障害の特性に応じた意思疎通のための手段について、理解を深め、意思疎通しやすい環境の構築を目指し、支え合う地域社会を実現することとしています。

第2条「市の責務」では、市の障害の特性に応じた意思疎通のための手段について理解を深め、言語やその他の意思疎通のための手段の普及及び啓発を図り、必要な施策を推進するとしています。

第3条「市民等の役割」では、市民は、障害のある人とともに生きる地域社会の一員として、障害に応じた意思

疎通のための手段について理解を深め、市が推進する施策に協力するよう努める。事業者は、障害に応じた意思疎通のための手段について理解を深め、障害のある人が働きやすい環境整備及び障害のある人が利用しやすいサービスの提供に努め、市が推進する施策に協力するよう努めるとしています。

受け、成器南幼稚園（園児数24名）と勝山中部幼稚園（園児数8名）を1園に統合する計画案を策定しました。近年の少子化に加え、核家族化と女性の社会進出の拡大により、幼児期の教育・保育ニーズが大きく変化してきている状況下で、勝山市では市立幼稚園の園児数が著しく減少してきています。今後も現状のまま市立幼稚園を維持・継続していくことは難しいとの観点から、2園を1園に統合することとし、統合時期は、平成31年4月1日、統合後の幼稚園は成器南幼稚園を利用するという計画案です。

勝山市幼稚園統合計画（案）について

勝山市教育委員会では、「勝山市立幼稚園のあり方検討委員会」の答申を

建設産業委員会

■今定例会の審査結果

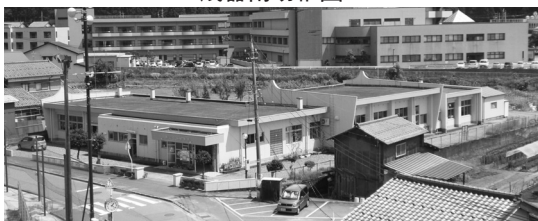
審査の結果、議案5件について全て可決しました。

除雪車の購入契約の締結について

今年度、凍結防止剤散布車、除雪ドーザ、ロータリー除雪機の3台が更新されます。契約額は、凍結防止剤散布車が1,922万円、除雪ドーザが1,857万円、ロータリー除雪車が4,644万円です。納期は、凍結防止剤散布車と除雪ドーザが平成



成器南幼稚園



勝山中部幼稚園